

①どのような問題か	②なぜその問題を提起するのか（その問題が重要である客観的理由）	③自分なりの解答	④そう解答する根拠	⑤教員の応答
紙の本は本当に必要だろうか。	現在、電子書籍ができてから、スマホがタブレットで本を読めるようになっている。紙の本がなくなると思うからである	紙の本は本当に必要がなくなる。	<p>なぜなら、電子書籍を利用するメリットは多くあるからである。</p> <p>一つ目は紙を使わないので、空気を壊さないことである。一冊本は少なくとも100枚紙から構成する。毎年、紙の本を作るために多くの木をきた。電子書籍を利用すれば多くの木が切らなくてもいい。その木がCO2を吸収してO2を退出して空気がきれいになる。</p> <p>二つ目は置く場所に対して心配することがないことである。多くの紙の本を買って読み終わったが自分の好む本ばかりだから、捨てたり、売ったりしたくない。そのために、部屋が狭くなりつつある問題がよくある。電子書籍を使えばパソコンやインターネットに保存できるので、多くの本を保存しても部屋が狭くならない。</p> <p>三つ目は、平成29年、電子書籍でも好きな文章をメモしたり、未知な単語をすぐに調べたりすることもできるようになっている。</p> <p>確かに、紙の本を使ったら、特別な快適感がある。それに、スマホやパソコンを使わないので目が悪くなることを避ける。</p> <p>しかし、環境の問題や便利な点を見れば、電子書籍の方が優秀である。</p> <p>以上の理由、将来紙の本が必要がなくなると考えられる。。</p>	電子書籍について、取り上げてよく考えて書いていますね。電子書籍については、授業ではあまりとりあげませんでした。というのも、電子書籍も書籍であるからです。確かに電子書籍がこれから主流になることは予測されます。紙の本のメリットもありますし、電子書籍のデメリットもあります。当面は両方をうまく併用していくのがよいというのが、私の意見です。
読書は紙媒体で読むか電子機器で読むか	スマートフォンの普及により読書の形態が変わっていくなかで、よりよい読書の仕方について話し合う価値があるから。	電子機器で読むのが良いと思う。	<p>一つ目の理由は電子機器で読むと、分厚い本を持たなくてもよいため持ち運びが便利であることだ。そのうえ、一つの電子機器でたくさんの本を読むことができる。紙媒体での本は一冊一冊借りたり、買ったりしなければならぬが、電子書籍であれば電子機器内で購入することで多くの本を読むことができ、便利である。</p> <p>二つ目の理由は、電子機器での読書は環境による制約を受けにくいということだ。電子機器は画面から光を発しているため暗い場所でも読むことができるが、紙媒体だと光のある場所でないと読むことができない。また、防水機能のついたスマートフォンで読むと極端な話、お風呂場で読書ができる。しかし、紙だと水に濡れるとダメになってしまうためお風呂場で読書は難しい。つまり、電子機器で読書をするると読書できる状況が増えるということが言える。</p>	紙の本のメリットも踏まえて、考えてみると、もっと良かったと思います。私の見解は上記の通り。

<p>図書館の利用者数と書籍の売れ行きには関係はあるのか</p>	<p>読書に関する本を読むと、本を図書館で借りるより買うことを勧めるものが多かった。また、朝日新聞(2016.6/14,33面)に「図書館での本の貸し出しが、文芸書の売上げを妨げている。」という批判が出版社や作家の中にあると書かれていた。もし図書館の利用と書籍の売上げにあれば関係があるのなら解決策を考える必要があるから。</p>	<p>図書館の利用と書籍の売上げにはあまり関係がない</p>	<p>書籍の売上げ減少は図書館の利用者にばかり原因があるのではなく、日本人に読書をする習慣が少なくなってきたからだと考えられるから。まず読書をしていない人は図書館にも書店にも行かない。むしろ図書館の利用によって、本を読む習慣が身につくことで本を買う人も増えるはずである。</p>	<p>私もそう思います。</p>
<p>依岡先生の授業で、読書の重要性やコツについて学んだ。しかし、現在は人々の読書離れが進んでおり、本を読む人は格段に減っている。また、特に学生などの若い世代の読書離れは、メディアなどで頻繁に取り上げられている。どうすれば、学生が本を読むようになるのだろうか。</p>	<p>読書は知識を広げ、教養を高めるために大切である。また、言語能力や思考力を鍛えるために、非常に役に立つ。読書離れが進むにあたって、このような教養や能力を獲得する機会が確実に減っている。また、出版社や書店も経営危機に陥り、数を減らしてきた。学生の読書離れを改善することで、学生にも社会にとっても良い影響を及ぼすのではないだろうか。</p>	<p>私は学生の読書離れ改善のために、学校図書館の整備と充実を提案する。</p>	<p>各学校には、学校図書館が設置されている。平成28年度において、学校司書を配置している学校の割合は小・中・高等学校で、59.2%、58.2%、66.6%である。この学校司書の多くは非常勤である。また、学校司書の代わりに司書教諭をおいている学校もあるが、授業などもしなければならず、図書館の業務にまで手が回っていないこともある。よって、各学校によって、図書館の利用状況は大きく異なるといえる。実際に、徳島の中学校や高等学校でも、昼休みや放課後など図書館が開いていないという学校がある。学生に読書活動を進めるのであれば、いつでも読みたいと思ったときに本を読むことができる環境をつくるべきである。その際に、学校司書の増員には費用がかかったり、司書教諭の負担の増大などの問題もある。そこで、現在行っている自治体もあるが、保護者や地域住民で学校図書館の業務をボランティアとして行うのが良いと考える。また、ボランティアとして行うことで、学生だけでなく大人も本に触れる機会が多くなり、読書の大切さについて考えられるようになるのではないだろうか。</p>	<p>読書環境の整備、確かに大切ですね。ボランティアを活用するというのは、いいアイデアですね。データを挙げながらの説明も説得力があって、いいですね。</p>
<p>いかにすれば学生は読書するようになるか。</p>	<p>読書は必要不可欠であるにもかかわらず、読書をしていない学生がいるから。</p>	<p>お金を稼ぎたいや異性からモテたいという欲望、人間関係や恋愛の悩みなどを持つ人は、これらの課題の克服につながる本から読書をするべきだ。</p>	<p>経済学や心理学などの学問として興味がある本を読むことは腰が重く、人間の本能や欲望の部分で興味がある本から読むことのほうが、知的好奇心が満たされ、本を読むことの恩恵を受けることをより実感できるからだ。本を読んだ結果として何らかのリターンを得ることで、徐々に幅が広がり、様々な分野の本を読むようになり、学生は読書をするようになる。</p>	<p>読書の効用を実感させるということは、確かに必要ですね。ただそこにとどまらず、さらに深く読書するきっかけになるといいですね。</p>

<p>読書時間の縮小、あるいは読書をしなない人の増加の問題</p>	<p>読書週間を設けるなどして学生の読書を推進しようという取り組みも行われるも、読書時間0分は増加し、読書平均時間も短縮しているのが現状である。このような状況を受けて、この問題は社会的部分に根本的な問題があるため、小さな規模ではなく社会全体でこの状況を打破する取り組みをする必要があると考え、この問題を提起した。</p>	<p>私が考えるこの問題の社会的問題点は、情報社会化に伴う読書に費やせる時間の喪失である。ここで大切なのは社会全体が読書の重要性を理解し、それに伴って読書の時間が取れるようなサイクルに変えていくことである。まずは社会が読書を歓迎する姿勢を作ることが本当の読書推進の第一歩になる。</p>	<p>情報化や社会の発展により、便利になり、物事が迅速に進むようになった。しかしあまりに速くことが進むため、人々は時間に追われるようになってしまい、目の前のことを片付けるのに精一杯で自分の時間が取れなくなってしまっている。せっかく読もうと思っても、仕事や他の課題に追われ、悠長に読書などしてられないという人も少なくない。だが、「読書など」というが、情報源になったり自分の視野を広げることにもつながったりと、勉強していくうえ生きていくうえで重要なのは読書なのだ。にもかかわらず、その重要な読書は後回しにされている。ここで着目したいことは、個人の意識づけも大切だが、それ以前にそもそもどんなに工夫しても読書の時間が取れないほどの多忙を極める社会のシステムである。どれだけ個人が読書をしようと心がけていても、既にぎちぎちに予定が組まれてしまっていては意味がない。自分の意志とは関係なく、学校、地域、会社など外部から野時間の拘束があまりに多い。いくら読書を推進する運動をしたところで、この時間的な問題の部分が依然として変わらなければ、結局矛盾を生むことになるため、社会的な変革が必要だと考える。</p>	<p>読書振興するには社会全体で取り組むべきという主張、その通りですね。いい論考ですが、さてそれでは社会における読書を歓迎する姿勢を作るにはどうしたらいいでしょうか。さらに考えていきましょう。</p>
<p>総合科学部では、読書レポートが課されている。学生はレポートを作成するために、課題図書を読むことになる。しかし、読書レポートがあるから、そのために読むというのでは、学生が主体的に読書をしたとはいえない。また、ただ読まされているだけでは知識が身につかないし、読書の習慣化にもつながらない。レポートの書き方を学ぶという点では有効であるが、学生に読書を促進するという点では、読書レポートは有効ではない。</p>	<p>読書は学生が身に付けるべき技術である。読書をすることで知識や教養を得ることができ、また文章を理解する力を鍛えることができる。しかし、近年、読書は面倒くさい、スマホで十分だと考える学生が多く、学生の読書量は減少している。学生が積極的に読書をするよう促し、読書を習慣づける必要がある。</p>	<p>同じ課題図書を読んだ人同士が交流し、感想や意見を言い合う場を設ける。また読書好きな人に、読んだ推薦図書やおすすめの本を紹介、プレゼンしてもらい、興味をもってもらおう。</p>	<p>レポートを書くために読書をするということは多くあり、悪いこととは言えない。しかし重要なことは嫌々読んで終わりではなく、読書を習慣づけることである。そのために、主体的に興味のある本を選んで、楽しんで読むという経験が必要だ。今回の読書レポートで読んだ本について話をしたり、他の人の意見を聞いたりすることで、新しい発見をしたり、違った視点から読み直したりすることができる。その中で自分の興味のある分野に関係する本を紹介してもらったり、おすすめの本を教えたりすることで、読書への興味を育てることができる。</p>	<p>読書会やビブリアバトルについては、授業でも紹介しました。アウトプットする場は必要ですね。それから主体的な読書をどう実現するかという問題提起は重要です。私もそのことを自分の課題として考えているところです。</p>
<p>読書が生き残るために</p>	<p>スマートフォンの爆発的な普及に伴い、読書は時代に取り残されている。その理由として、 ・手軽さがない ・読書自体をダサい。いけ好かない。という若者の風潮がある。 などがあげられる。 読書がこの先生き残るためには時代に合わせた変化が必要とされる。</p>	<p>・読みやすい配慮を加える → ネットで読めるようにする。 音声で読み上げるシステムをつける。 ・</p>	<p>若者はめんどくさくて紙媒体の本は読まない。ネットで読める電子媒体の普及を進める必要あり。</p>	<p>電子書籍も含めて、読書のあり方を考える時代ですね。上記参照</p>

日本人の読書離れの何が問題か	読書の目的は知識力、想像力を向上させ、そこから生きるヒントを得ることであると講義で学んだ。では、読書をしなければこれらの力は低下するのか。また読書離れの何が問題であるのか本質的に説明できる人はいるのだろうか。 むやみやたらに「読書をするべきである」と理由を説明することなく、子供たちに考えを押し付けたとしたらどうだろうか。読書そのものに嫌悪感を抱く子供もいるだろう。逆効果を与える前に読書離れがどのような問題を引き起こすのか知っておくべきである。	なぜ読書離れが問題であるかという点、自分の考えを確立させる引き出しの少なさが問題であると考えている。	小説や評論などには「答えのないテーマ」が存在し、古い書籍であっても現在議論されているものもある。そのような「答えのないテーマ」について深く考える場を提供してくれる読書から離れてしまえば、様々な著者の考えにあたることもできなくなり自分なりの答えも出せなくなる。これがいわゆる知識力、想像力の低下である。生きていく以上、何度も「答えのないテーマ」に出くわし、自分なりの結論を出すことが求められる。その時に、多くの考え方を抱いていけばよりよい選択ができるだろう。ただ、1冊や2冊の本を読んでいたとしても、基礎が出来上がっておらず、自分の考えは脆いものとなり簡単に崩れ去ってしまうだろう。だからこそ、日本人の読書離れは問題であるとされているのだ。	「答えのないテーマ」について考えるために本を読むというのは、いい指摘ですね。確かに読書離れの問題はこのような観点でもとりあげるべきですね。
現代、端末で本が読める時代になっていますが、先生は端末で本を読むことについてはどうお考えでしょうか。	手軽に様々なジャンルの本を読めるという点ではもちろんいいことであるが、子供にとっての教育でマイナスな影響がでたり、歩きスマホといった現代的な社会問題も起こっているのだから今考えるべき問題の一つであるから。	私は端末で本を読むのは極力やめたほうがいいと考える。本を端末で読めるサービスでは本の値段より高めに設定するなどの処置を政府ぐるみで行うことが必要。	端末を利用して本を読む場合、必ずブルーライトを浴びるので目に悪だけでなく、寝付きにくくなる。現代人の睡眠問題にもかかわるのだ。本市場を守るためにも端末で本を読めるサービスはある程度規制をかけるべきだ。	私自身は端末で本を読むことはほとんどないですが、電子書籍については上記をご参照ください。
日本の読書離れの深刻化	齋藤孝の『読書力』によると、「日本において読書力は外国でも通用するほどの大きな力であり、それは、経済の評価にも組み込まれるほどである」(齋藤孝 p44)とある。つまり、日本人にとって読書というものは教養としてするべきものであった。しかし、今では、読書はしてもしなくてもいいという評価へと変わってしまった。このままだと日本人は、外国に通用する貴重なアピールポイントを失ってしまう。そうなる前に、もう一度読書の重要性を理解し、読書を習慣化することが必要であると考えたからだ。	私は、学校教育の中で課題図書を扱う授業を増やすことが効果的であると考えた。生徒は自主的に本を読まなくなってきたが、それは読書の意義や重要性を体感していないためである。本を読む動機づけを行えば、生徒たちは本を読む。そこから、読書の重要性に気づかせることで、生徒たちは進んで読書をするようになる。学校教育と読書活動をもっと関連付けたものとすれば、自主的に読書を行う若者は増えると考えられる。	岩井歩教諭は、定期試験に読書問題を入れるというプロジェクトを三年間行った。すると、実践したクラスの読書力は格段に向上したという(『読書力』齋藤孝 p33)。また、生徒たちからの意見も好意的なものが多かった。このことから、読書をする動機づけを学校側が行うことで、読書の重要性を生徒自身が体感し、その後の自主的な読書活動へとつなげていくことができると考えた。 参考文献 齋藤孝 『読書力』 岩波新書, 2002	参考文献を挙げて論じている点は、よかったですね。主張にも共感します。読書の重要性を体感させること、さまざまな取り組みがあるので、参考にしていきたいと思います。
読書をする人が増えていないこと。	「読書の勧め」という授業の中で、読書が大切だということ、もっと言えば必要不可欠だということを教わり、コメントを見ると「読書をしようと思う」と答える人が多かったのにもかかわらず、もともと「読書をあまりしない」と話していた総合科学部の同級生約15人に「読書してる?」と聞いてみると、「やっぱり時間ないし読書とかは必要な情報集めるとき以外はしない」というような趣旨の回答をもらい、まだまだ読書をしようという人が増えてないことが分かったから。	題名や表紙から「面白そう」と思われるような読みやすい小説や、何らかの賞を取った話題作をたくさん紹介して、自分から「あ、ちょっと読んでみたい」と興味を抱けるような取り組みを、例えば授業の最後にするとかして、自分から参加しなくても情報を知れるようにする。	授業の中で勧められていた「ライブラリーワークショップ」「阿波ビブリアバトルサポータ」「まちライブラリー」「金曜の会」などのへの参加というのは自分からしなくてはならない。つまり、もともと読書に興味がない人からしたら、わざわざ時間を取って参加する必要性を感じられないため、結局本に触れる機会を失ってしまう。また、自分の興味のある本しか読まない、という人が多いことから、自ら参加したり行動しなくても、多岐にわたる本の紹介をされることで、読んでみたいと思えるような本に出会える機会が増えるから。	読書する必要性は理解できたが、現実生活ではやはり実践はむづかしいということでしょうか。確かに読書会ももともと読む人にはいいが、そうでない人には効果ないのかもしれない。読んでみたいと思える本に出合える機会を増やすということは、確かにいろいろ工夫する価値はあるでしょう。
「読書の目的は知識・情報を集め、想像力を培い、共通の記憶に触れること、考えるヒントや生きる力を得ること」と授業であったが、趣味として楽しんだり、暇な時間の有効活用として読書をしてはいけないうか。	今までの読書へのイメージは、自分が好きな本を読むことが読書であり、また知識や情報を集めたり、考えるヒントや生きるヒントを得たりするのは、趣味として読書を楽しむ中で自然に身に着くものであると思っていたため。	読書の目的は、趣味として楽しみ、自分の時間を有効活用することであり、知識・情報、考えるヒントや生きる力は読書をする中で自然に身に着くものである。	知識・情報や考える力を培うことを目的として読書をするのもよいが、自分が好きな本を楽しんで読む中で知識・情報や生きる力を得た方が長続きする可能性が高いから。	楽しむための読書は、生きる力を得るという意味で、目的にあげておいたつもりです。主張には、私も賛同します。

<p>読書をする事は、本当に大切なことだと学び、習慣化させようと決めたが、実際には全くできていない。やはり小さいときから読書をする事に慣れていない人にとっては習慣化させることは難しいのではないかな。</p>	<p>「読書の勧め」という授業で、読書の目的を学んだ。そこで、読書をする事で知識が増えたり、考え方が変わったり多く得るものがあると知った。また、読書は食事と同じように習慣化することが大切であると学んでそのときは納得したが、今私が読書をする量が増えたかと聞かれると全く増えていない。だから、毎日の生活の中に読書の時間を作って習慣化させることは普段から読書をしてなかった人にとっては、難しいということを実感したから。</p>	<p>難しいことは難しいが、無理矢理にでも習慣化させるしかない。毎日5分からでもいいから短い文章でも読むようにすればよい。そして、慣れてきたらもっと読みたいという気持ちになり、読む量も増えていくかもしれない。</p>	<p>別の例を出すと、食事の場合、食事はほとんどの人が習慣化されている。小さい頃から両親に教えられて当たり前のようにしている行為だからだ。だから、読書も最初はした方がよいという使命感を持ってすると次第に習慣化されていくのではないかと考えるから。</p>	<p>読書するには、習慣化する必要があるということには、私も賛同します。現代人は忙しい生活の中でなんとかやりくりしながら、読書するしかないでしょうから。</p>
<p>大学生に読書を強要することについて。</p>	<p>授業でも言われたように、読書は知識・情報を深め、想像力を培い考えるヒントや生きる力を得るために必要である。しかし、大学生は読書をしている人が少ない。だからと言って、強要することは学生の行動を制限する(読書の時間を無理やり作ることになるため)ことにもなるのではないかな。</p>	<p>読書は強要されてするものではない。自分自身が必要だと思った時にするのである。</p>	<p>強制的に読書をさせられても、本の内容は頭に入らない。また、「読書をする」ということは本を読むことに「時間を割く」ということである。大学生は人生の中で一番拘束されない時間が多く、留学など学生の間でしかできないことも多くある。社会に出る準備をする大学生のうち、自分の関心に従って行動すべきであり、貴重な時間を読書を強要することで削ってしまうのは間違っている。</p>	<p>私も読書は強要するものとは思いません。それでは、本嫌いは増えるばかりですね。ただ大学では本を読むことが研究するうえでも不可欠なものです。そのために本を読むことが課題になることは、ありません。</p>
<p>読書をするように促すにはどうすればいいかな。</p>	<p>読書をする事によって自分にはない考え方を知ることができる。社会では多面的なものごとを見るのが重要であるにもかかわらず、読書をする人が減っているから。</p>	<p>教育の場を利用し、自分の興味のあるジャンルの本を、強制的に読ませる。</p>	<p>何事も体験してみないと、幾ら魅力を伝えられても読書とはどんなものなのかわからないから。興味のない人に読書の大切さを語ったところで、その解説自体が苦痛になってしまうから。</p>	<p>本を読む重要性をわかるためにも、本を読むしかないというのは、その通りですね。まずはその分野に興味を持つこと、確かにそれも大切です。</p>
<p>現代の若者の読書離れ</p>	<p>近年、読書離れをする若者が増えてきたが、それに伴う影響について検討する必要があるからだ。</p>	<p>やはり、読書離れは悪影響をもたらす。正確には、ネットに情報源が移っていくことが悪いことである。</p>	<p>ネットは便利であるものの、ネット上には、本より多くの誤った情報や悪意のある情報が広がっており、子供に限らず、様々な年代の人々に悪影響をもたらす恐れがあるからである。</p>	<p>ネットの問題と読書との関係を考えることも、大切なテーマですね。</p>
<p>読書を勧める内容の講義はなくてよい。</p>	<p>大学生になるまでに何度も話を聞いているから、皆「またこの話か」となっているから。本好きは全然苦ではないが、苦手な人からしたら苦である上に眠い(個人的には読書は好きであるから苦ではなかったが)。</p>	<p>全体に紙を配り解説するのではなく、紙を配って各自読んでもらう形にすれば良い。そうすると読みたい人だけが読む形になる。前で話をしたからといって本を読む人が増える訳ではない。</p>	<p>各自で読む様にしたとしても、読書レポートがあるから皆最終的には読むことになる。α読み、β読みの解説を付け加えたらレジメだけで大丈夫である。</p>	<p>授業で読書を勧められることにうんざりするし、効果はないということですね。授業で話したからといって本を読むようになるわけではないと断定されてますが、授業をやっている人間として必ずしもそうではないと信じてやっています。実際、これを機に本を読みたいと書いていた学生もいました、本当にそうしているかどうかはさておき。とはいえ、<u>大学</u>で本を読むことの大切さが十分に伝えられていないとすれば、講義のやり方も考え直さなくてはなりませんね。</p>
<p>若者の読書離れ。授業コメントで若者が携帯などにより読書離れが進んでいるが携帯を持っていない子どもも読書離れが進んでいるという点に着目している人がいた。その原因について考える。</p>	<p>よく携帯のせいと言われている。確かにそれも1つの要因だろう。しかし新たな原因が分かると今後の対策も変わってくる。</p>	<p>このことを踏まえて違う所に焦点を当ててみる。今の若者は娯楽も勉強においても本に変わる物が多くあるためと推測する。</p>	<p>今までは本から得ていた物が多かったが実際に体験している。娯楽はスポーツやゲーム、勉強はネットで。よって本を読む時間が少なくなる。</p>	<p>確かに読書しない原因が携帯だけだとはいきませんね。</p>
<p>読書に対する優先順位が低いという問題</p>	<p>授業のPowerPointであったように、読書しない理由として多忙や情報源がスマホであるという理由は理解ができるが、読書に対する優先順位が低いという理由がなぜなのか、理由として成立しているのか。</p>	<p>本は読みだすと読み進めることができず、読み始めるまでに勉強であったり、読書意外の趣味を優先してしまうため。</p>	<p>私自身が読書以外の事柄を優先しがちであるため、優先順位が低いことはわかるが果たして理由となっているのか。</p>	<p>問題の主旨がよくわかりません。読書に対する優先順位が低いために、他のことを優先してしまい、結果的に読書しないということなのでは？</p>

<p>読書についてのアンケートについて。依岡先生のアンケートに限ったことではないが、読書についてのアンケートについて「一日にどのくらいの時間本を読みますか」「一か月に何冊くらいの本を読みますか」という項目があること。</p>	<p>読書の時間や頻度は時期や期間によって全く変わってくるため、その項目は答えにくいものであり、また読書の実態を正確にはつかめるとは言えないから。読みたい本があるときは時間を割いてまで読書をし、特になくときは読まない。そうやって状況によって全く変わってくる読書の頻度や時間を答えるのは難しいことであるから。</p>	<p>読んだ冊数などを、期間を長く設定して調査すべきである。読書の頻度や時間については、忙しいとき、そうではないときなど、読書の環境に関する項目を増やすべきである。</p>	<p>その人がどのくらいの本を手に取り、読んだかを見れば、読書への関心を見ることができる。また、アンケートを答える側もより正確な回答ができ、正確なデータが得られるはずである。</p>	<p>アンケートの方法についてですが、他のアンケートデータと合わせる必要があり、そのような項目になってしまったのでしょうか。ただ、「一日に…」とか「一か月に…」と言う場合は、「平均して一日、あるいは一か月に」という意味ですから、たとえばまったく本を読まない日や月があったとしても、総合的にはある程度の読書の傾向は知れるのではないのでしょうか。</p>
<p>一つ目は、学生が、サークルやアルバイトなど、することがたくさんありすぎて、ゆっくりと本を読む時間が取れないということ。 二つ目は、講義などで先生がお勧めの本を紹介して下さっているが、難しそうなので、自分からは読んでみようと思わない学生が多いということ。</p>	<p>読書が大切であるということは分かっているが、読書をするためにはある程度の時間を取る必要があるため、なかなか読書を始めようとは思わないという問題点があるから。 また、知識を広げ教養を高めるためには、小説だけでなく論説文などの少し難しい本も読む必要がある。そこで、どうすれば学生が難しい本に抵抗を持たなくなるのか考えなければならないから。</p>	<p>一つ目の問題に対しては、大学の授業内で本を読む時間を作るべきである。 二つ目の問題に対しては、いきなり分厚い本に手を出すのではなく、最初は少し短めで読みやすそうな本から読んでみるのがよいと考える。</p>	<p>私は、読書レポートの課題が出たことで、本を読むことができた。それゆえ、授業内で、本を読み友達と意見を共有する場を作ることにより、たくさん本に触れ、他人の意見も聞くことができる。 また、読書をしなければならぬと思いきなり分厚い本に手を出すと、長続きしないので、短めの本から読んで、慣れてきたら長い本も読むようにしていくべきである。</p>	<p>本を読む時間の確保については、授業以外でも工夫したいところです。読む本の難易度については、私もそれが現実的なやり方だと思います。</p>
<p>若者の読書離れの深刻化をどう対処するのか</p>	<p>大学生の半分は、読書を全くしていない状況だ。このことは、日本の学力を大幅に下げている。しかし、大学生のほとんどが、自分の読書時間が少ないことを自覚している。また、大学生の、6人に5人は、本を読むべきだと思っている。そうであるならば、大学生の読書時間を増やすのは、かなり可能性のあることではないか。</p>	<p>私なりの回答をすると一つは、幼少期のころから読み聞かせなどで本に触れる機会を増やすこと。もう一つは、学生に簡単に読めて、ためになる本を開示して、そのどれか一つを読むという課題を与えることである。</p>	<p>一つ目の根拠は、幼少期の読み聞かせの場合は幼いころから本に触れることによって、本を読む習慣が作られるからである。また、幼少期の子どもにとって、親の影響は非常に大きい。親が定期的に読書をしている姿をみせると子どもは、親の真似をして読書をするようになるだろう。 2つ目の根拠は、大学生にとって読書の敷居を低くしすることに役立つからだ。また、まったく、読書しない学生は読書の面白さにきずくかもしれない。</p>	<p>読書する必要性は感じてるのに、それができていないという問題、たしかにそうですね。読書させるときに読む人のレベルを考慮するということですね。効果があると思います。</p>
<p>若い世代の人々が読書をするにはどのようにすればよいか。</p>	<p>読書は、非常に大事なものであるからだ。 なぜなら、読書をする中で、知識が増え、語彙力を伸ばすことができ、物事を幅広い視野で捉えることができるようになるからだ。本を読むことで、多くの異なる意見に触れることができる。1つの視点だけでは、対応できないことも多いが、多くの視点を持っていることで、困ったことがあった時、本で読んだことを思い出し、あらゆる場面で適応させることができる。 また、想像力を養うこともできる。想像力を養うことも、幅広く物事を捉えることに繋がる。また、自分で物事を考えるようになる。社会に出た時、人に頼るだけでなく、自分であらゆる場面を考えなければならない。 また、知らなかったものを自分で積極的に調べるようになる。 このように、読書をする中で、成長できる部分もある。そのため、若い時から本に触れる必要があるため、若い世代の読書離れは解決しなければならない。</p>	<p>読書を始めるには、まずは、好きなものや興味のある分野から始めると良い。 例えば、好きな有名人が書いた本や映画化、ドラマ化された本などである。そのため、本が映画化、ドラマ化された場合には、原作が本であることを分かりやすく伝えることが重要である。ドラマの後に本が紹介されることが多いが、ドラマが始まる前に本を紹介するなどすると本のことがより広まる。 また、出演者が本を読み、その本が面白いということを伝えることも若者が本を読むことに繋がる。</p>	<p>好きな有名人が書いた本や読んだ本であれば、興味があり、読むからだ。 また、映画化、ドラマ化された本を読むことは、話が分かっているため読みやすいため、読書が苦手な人でも読み進めることができる。読んでいるうちに、映像を思い出すことで、読みやすくなることもある。 そして、ある程度の本を読むと、「好きな有名人が書いた本や読んだ本だから」「映画化、ドラマ化された本だから」ではなく、読書自体に関心を持つようになり、同じ作者が書いた別の本や違う分野の本を読むようになる。 多くの本を読む中で、自分が関心を持つものを見つけ、そこから、研究に繋がる。 このように、自分の興味や関心を見つけるため、楽しむ読書をし、研究のために、専門書を読む、というように若者も読書をするようになる。</p>	<p>まずは興味のある本からということ、たとえば映画化された本を勧めるということも、いいアイデアですね。いろいろな本を読んでいくうちに、自然と興味・関心が広がるようにするのが、理想ですね。</p>

<p>読書の目的は知識・情報を深めること、想像力を培い、共通の記憶に触れること、そして考えるヒント・生きる力を得ることだと、授業で学んだ。この学びの中の、共通の記憶に触れることという点に関して問題提起をさせていただく。共通の記憶について触れることは、自分が実際に経験していないことを追体験できるという点ではとても良い。しかし、本の中には危険な思想を持つ人が書いた本もあるだろう。もしその本を読み影響を受けることで読んだ人も危険な思想に傾いてしまう危険性はないのだろうか。</p>	<p>読書をすることは多くの人が良いことであると考えているし、知識を深められるなどの多くのメリットが確かに存在する。しかし、そのメリットとされていることが悪い方向に向いてしまう可能性はないのだろうか。読書の良い部分だけに目を向け読書を推進するのではなく、読書のもつ危険性についてもきちんと理解したうえで読書を推進する必要があるからだ。</p>	<p>危険な思想を持つ人が書いた本を読む影響を受けることで、危険な思想に傾いてしまう危険性はある。ただ、一度読むだけですぐに思想・考え方が変わるというのではなく、何度も何度も繰り返し読むことで思想・考え方が変わっていく可能性がある。また、このような危険性があるからこそ、歴史上悪人とされているヒトラーの「我が闘争」を出版を禁止する禁書としている国が数か国あるのではないか。</p>	<p>戦時中の日本では学校で使う教科書は、軍事色の強い内容が載った教科書だったと歴史の授業で習った。この教科書を使い教育することで、子供たちの思想・考え方を戦争中心の考え方に变化させていった。このことから、教科書などの本が人の思想・考え方に与える影響は大きいと考えられる。</p>	<p>どのような本を読むか、確かに大切な問題です。戦時中の教育のあり方についても、それを繰り返さないためにも、知っておくべきですね。そこから学ぶべきことは、本についてもできるだけ多様な本に触れられるようにすべきであるということです。とはいえ、悪書にあたることもありますので、まずは古典的な本から本から読むといいでしょ。</p>
<p>読書を習慣化すべきであると言っていたが、具体的に大学の間にどのような本を読むと良いのだろうか。</p>	<p>私は、依岡先生の意見に賛成であり、読書を積極的にやるべきであると考えている。しかし、今まで情報はスマートフォンで必要な時に調べるだけでそれ以外の時には情報を身につけようという姿勢を取っていません。そのため、どのような本から読めば良いのか分からず、講義があつてからだといふ日数が経っているのにまだ本を読んでいる。他にも、読書の大切さをわかっていながらどんな本を読んで良いのか分からない人がいると思い、この問題を提起した。</p>	<p>私は、この問題について考えた中で、自分のレベルにあった本を選ぶことが大切であると考えた。本が好きな友達や先生に自分が興味のある分野の本を紹介してもらうことが読書を効率よく、失敗なく始める近道である。自分で読書する習慣さえ身につけてしまえばどんどん難易度を上げて行けば大学生レベルの本にたどり着き、身につけると役に立つ情報がいつのまにか身につけているのではないだろうか。また、ジャンルは何を読んでも読んだ人がどう考えるか次第であると考えた。</p>	<p>背伸びをして難しい本を読もうとすると途中で諦めてしまい、結局せつかくそれまで時間をとって読んで来たのに、十分に本の内容が理解できずにそれまでの時間を無駄にしてしまう。だから、まずは大学生や大人向けの本でなくても字が大きかったりページ数が少なかったりしても良いので、読み切って自分の知識を増やすことや、読書することの楽しさを身につけ、読み切る力をつけるところから始めるべきである。しかし、読書初心者は本自体の選び方もレベルも判断できないので、聞いて進めてもらうことが良い。ジャンルによって受け取れるものは違うのでジャンルは絞らず、自分の好きなもので良い。以上が4のように考える根拠である。</p>	<p>読書するための段階を考慮するというのには、同感です。ぜひ実践してみてください。</p>
<p>本を読む人の減少 本を読むけども小説等は読まずに漫画や雑誌ばかりを読んでいる。</p>	<p>本を読んでいる人の姿が見えないから。本を読んでも小説とかでなく、漫画や雑誌を読む人たちが増えている。</p>	<p>長い時間読み続けられない。飽きてしまう。本を読まずにスマホを使う人が増えて、本を読まなくなった。</p>	<p>自分を含め、大体の人たちが本を読まない。それは、時間がない、本を読むなら違うことをする(遊び、ゲームなど)。という人たちが多くなっているから。</p>	<p>それも読書しない理由のひとつですね。それが問題だとすれば、その問題について、どうしたらいいでしょうか。</p>
<p>私は若者の活字離れが問題であると提起する。昔は新聞や本が貴重な情報源であったために多くの人が活字を読んでいた。しかし、近年になって多様な情報源が現れた。テレビやラジオ、インターネットで欲しい情報が手に入るようになった。私が実際に生活している本や新聞を読んでいる若者を見ることは少ない。読書好きの人は定期的に本を読んでいるが、それ以外の人はなかなか本を読む機会をつくらうとしない。活字に触れる機会を失ってしまったのである。</p>	<p>本を読まなくなるということは、新しい知識を取り込む機会を失うということであり、これは重要な問題である。人間はいつになっても新しい知識を取り込み続けるべきである。人間の記憶は消えていくものであるから、何かを取り込まなくては最終的に何も持たない人間になってしまう。しかし歳を重ねてから何かを取り込むことは難しくなる。そこで、若いうちにどれだけの知識を取り込めるかといふことが重要である。その機会を失ってしまうは、人間として中身の無いものになってしまう。</p>	<p>最近では電子機器の技術が進み、紙媒体の本を買う機会が少なくなっている。そこで登場したのが電子書籍である。</p>	<p>電子書籍は携帯電話でも購入可能であり、電子媒体を持っていれば本を読める。本屋に行って本を買うよりも手軽である。この電子書籍ならば、若者も手出しやすい。荷物にならず、隙間の時間を使って読むことができる。忙しい若者にとっても良い手段である。</p>	<p>電子書籍について、上述しましたが、電子書籍がこれから主流になることは予測されます。紙の本のメリットもありますし、電子書籍のデメリットもあります。当面は両方をうまく併用していくのがよいというのが、私の意見です。</p>

<p>「若者が読書をする、もしくは親しむにはどうすれば良いか」ということを問題とする。</p>	<p>何故この問題を提起するのかというと、若者が読書によって培った、自分で考える力があれば、これからの民主主義社会において、より正しく、より良い民主主義社会に近づくことが出来るからだ。</p>	<p>若者が読書に親しむ為には、読書には、ネットとは違う楽しみがあると考える。そして、それを知らせるために、ネットを利用する必要がある。</p>	<p>何故なら、読書の楽しみとインターネットの楽しみを明確に区別することによって、それぞれ違った楽しみ方があると、若者に示す必要があるからだ。また、現代で一番情報を若者に発信できるのは、インターネットであるからだ。</p>	<p>読書にはネットとは違う意味があるということを知らせるために、ネットも利用するというのも、一理ありますね。ただネットを利用する人が必ずしも本を読まなというわけではないでしょう。</p>
<p>読書をしたかったりし続けるにはどうしたらいいか。</p>	<p>読書することは大切で自分のためになると分かっていてもなかなかやろうと思えないから。読書する時間を作るなら他に出来ることはないのかとってしまう。</p>	<p>読書以外にしなければいけないことや楽しい事があるから。読書の楽しさに気付いていない。</p>	<p>読書よりも楽しい事が多く読書がそこまで良いと思えない。</p>	<p>授業でも言いましたが、大学になったばかりのこの時期には、大学で本を読むことの意味を確認することが、大切ですね。</p>
<p>講義の際グラフが見えにくかったのと話が聞き取りづらく授業理解が大変である問題。</p>	<p>この授業では後から授業コメントを入力する必要がありその際に内容がわからないという問題になるため。</p>	<p>グラフは配色を考えるのとどの項目が何かを付け加えるべき。話し方については人それぞれだが、もう少し声を張ってくれると聞いているこちらも聴きやすく理解しやすい。</p>	<p>全員ではないがこの授業の時、私が見る限り顔をしかめている人が多かったこと。あとは私の個人的な経験からもあるがこれは根拠としては乏しいと理解している。</p>	<p>気を付けます。ご指摘ありがとうございます。</p>
<p>授業資料で用いられたパワーポイントに使われた色がバラバラで、目が痛くなってしまふこと。</p>	<p>最長で90分間、学生は画面を見ていなければならぬ。ずっと見続ける必要こそないものの、目の疲れやストレスはかなり大きなものになりうるからである。</p>	<p>濃い青や赤、橙色といった刺激の強い色を避け、淡い青や薄みどりなどの自然にできる限り近い色を使ってプレゼンテーションを作成すれば、学生の目に掛かる負担を減らすことができる。</p>	<p>緑色というのは、森や林にある木の葉や生い茂る草木と同じ色で、木は古くから人間にとって身近な存在であったために、今生きるわたしたちにとっても見ていると安心をもたらしてくれる。それは目に対しても同様で、木の緑色は心も身体も落ち着かせてくれる効果がある。 青色も目には優しいとされている。これは空の色や海の色を思い浮かべてもらえればよくわかるように、青色も安心感を与えてくれる色であり、緑色同様に副交感神経を活性化してくれる落ち着いた色なのだ。 逆に赤色に関しては、交感神経を活性化させる効果がある。交感神経が働いているときは、わたしたちが活動しているときであったり、ストレスを感じてしまっているときだ。筋肉や神経などからだ全体が緊張してしてしまう。 加えて、照明条件等による画面全体の見にくさ、高輝度・高彩度の色及び点滅する画像等の使用、文字と背景の配色バランス、画面上の情報のわかりにくさが問題点と言える。長崎県立大学大学院での実験で、この調査結果が得られている。 (http://ci.nii.ac.jp/els/contents110008441767.pdfid=ART0009683764)</p>	<p>スライドについての丁寧な説明、ありがとうございました。参考にさせていただきます。ありがとうございました。</p>